

# SHIN CLUB 294

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「ベルエア練馬」 撮影：志摩大輔

## 都市の余白

写真は、2月に竣工いたしました「ベルエア練馬」です。

西武鉄道、都営地下鉄の計4路線が乗り入れる「練馬駅」から徒歩5分。緑豊かな平成つつじ公園近くの閑静な住宅街に位置するその建物は、住宅設備設計をおこなう、株式会社環境プランナー様の新オフィスを構える共同住宅です。

建て主である環境プランナー社の代表取締役会長 福永俊春様は、弊社の前身会社時代から設備設計の業務を請け負っていただいていることもあり、自身の建物を建てる際は是非弊社で、と心に秘めていたそうです。

「辰さんとは多くのお仕事を一緒に、その技術も十分理解してましたから、建物を建てる際は辰さんでと思っていました。以前の事務所が手狭になったこのタイミングで、計画地がちょうど売りに出されていたこともありお仕事を依頼。長年の恩をお返し出来て良かったです」と福永俊春様。

基本設計は環境プランナー社、意匠設計は大場英明建築事務所の大場英明氏が担当されました。

打放しコンクリートの外壁に、すっきりとした印象を与えるバルコニー手摺と大きなFIXサッシ。サッシからは室内壁の木板が垣間見え、RCの無機質感と木の温かみの調和が、ファサードの印象を和らげています。

『ベルエア練馬』は、建て主である福永さんの優しいお人柄を表現したいという想いから、手に触れる部分への素材感・肌触り感を意識しました。室内壁は、外壁の打ち放しと対比し、木の優しさをシナ合板で表現。外から眺めたときに窓から見えることで、ファサードにも影響がでるように意図しています。そうすることで、室内外における異素材感の調和を視覚と触覚で感じられます。また、エントランスの床と外壁に目の細かい丸石の洗い出し仕上げを採用しました。肌触りが非常に柔らかく、夜に照明が当たった際、光が乱反射し、温かい雰囲気を出することで、夜でもその優しさを感じることができるんです」と大場英明氏。

住宅密集地のなかで、どこか抜け感を感じられる「ベルエア練馬」。そこには大場氏の考える「都市の余白」が重要な役割を果たしているのだとか。

「都心の住宅密集地に存在する、建物間の隙間や路地裏である『都市の余白』に建物の機能が接続することは非常に大事だと考えています。『ベルエア練馬』も、上階から路地沿いへと視線を移した先に電車が望め、住宅密集地に居ながら、どこか深呼吸できるような心の休まりを持つことができるんです」（大場氏）

優しい質感と心地よい抜け感を感じられる建物が、また1つ完成しました。

ベルエア練馬



撮影：アック東京

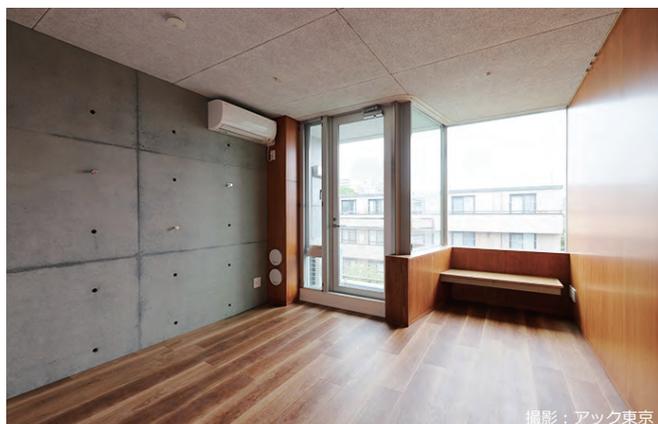
建物全景。都市の余白との繋がりを意識したデザイン



光が入り風が抜ける共用廊下・階段室



閉塞感のない目透かしを入れた階段



撮影：アック東京

3階住戸。RCの無機質さと木の優しさが調和する



一息つける特別空間のリビングベンチ



撮影：アック東京

1階事務所。パブリック空間を大きな開口で接続

優しい風と光が通り抜ける日常

住宅密集地において公園はもちろん、路地や建物の隙間は住まいへ光や風を届ける貴重な「都市の余白」である。その余白に建築の機能を接続させ、光や風を導き、視線の広がりをもって街と連続させる関係を試みた。

住戸の間取りは全て1Rとなっているが、居室7畳程度ではベッドが生活の中心に成りかねない。

そこで出窓のように2面開放されたリビングベンチの設置を提案。植栽が茂る公園側に配置し、木々を感じながら過ごせる居場所を設けた。

リビングベンチの腰壁は室内側に向かって広げることで、空間が分断されないように意識した。腰壁が直角でないため、サッシがシンプルに見えるよう納めるには非常に苦労したが、部分模型をもとにして緻密な打合せを何度も重ね検証したことで、外部との繋がりを生み出すことができた。公園の緑に囲まれ、慌ただしい毎日のほんのひと時でも一息つける場所であって欲しい。

事務所の打合せ室は街の間のパブリックな場所として、道の延長となるような大きな開口で街と接続している。公園の自然に対峙したコンクリートの量塊は、浮遊するように1階の無柱空間の上に乗っている。住戸間の2層の間仕切壁を壁梁とすることで、1階は梁型のない無柱空間となっている。

共用廊下、階段室にも梁が出ないようにスラブのみで応力伝達させ、敷地先の抜けを感じられる広々とした空間とした。また、手摺は躯体と枠に隙間を設けてワイヤーメッシュにし、階段には目透かしを設けて風と光の通りを妨げないようにしている。閉塞感の軽減された共用廊下には、隣地からの風や光が抜け、建物内に息吹を吹き込んでくれる。

常に溢れる情報とデジタル画面に向き合わなければならない現代の都市生活だが、視線を遠くにやり街の気配に耳を傾け、光や風の通りを感じられる、そんな温もりのある日常を想起した。

細かなこだわりにとことん付き合ってくれた富樫所長、齋藤（藍）係員を始め、多岐にわたる業者様のご協力のもと無事竣工することができ感謝を申し上げたい。

(大場英明建築設計事務所 / 大場英明氏 談)



撮影：大場英明建築設計事務所

部分模型を作成し、細部まで納まりを調整



洗い出しに光がにじみ、柔らかく道を照らす



1階事務所。無柱空間で広々としたスペース

所在地：東京都練馬区練馬 1-15-8  
 構造：RC造  
 規模：地上3階  
 用途：事務所・共同住宅  
 基本設計・監理：環境プランナー  
 基本設計・実施設計・監理：大場英明建築設計事務所  
 竣工：2024年4月  
 施工担当：富樫・齋藤（藍） / 獅チーム  
 撮影：志摩大輔・アック東京



環境プランナー社事務所にて。向かって左側：福永様 右側：大場氏 撮影：アック東京

# Hideaki Oba × Toshiharu Fukunaga

今月は、「ベルエア練馬」の建て主であり、基本設計を担当された株式会社環境プランナーの代表取締役 福永俊春様と意匠設計を担当された大場英明設計事務所の大場英明氏にお話を伺いました。今では建築の「核」として無くてはならない専門分野の建築設備・電気設計。ですが福永様が建築と出会った頃はまだ建築業界において重要視されていなかったそうです。一方大学時代の卒業制作をきっかけに、とある建築分野に魅了されたという大場氏。お二人のルーツを紐解いていきます。

—今では建築業界において機械設備・電気設計は重要な専門分野となっていますが、当時はそこまで注目されていなかった？

福永：学校卒業後に総合建設会社に入社しましたが、その頃初めて「設備設計」というものが注目され始めました。それまではどの会社も協力業者に描いてもらうことが多く、ただ私自身が「それではよくないだろう」と社内で声を上げましたが、専門部署ができるまで数年掛かり、その間に私が建築士と設備設計の資格を取得したことで私自身に他から仕事が来るようになり、10年の節目で独立。当時は設備設計専門の人は少なかったもので、独立した後も引っぱりだこで大変でした。

—今なお業界的には設備設計専門でおこなえる若い人材は貴重とされていますよね。

福永：そもそも設備設計専門の学校や、専攻学科や学部がないんですよ。専門高校などでそういった分野はありますが、実家が電気屋さんだったり設備屋さんだったりという生徒が多くて、卒業と同時に家業を継いでしまい、設計事務所にごないのが現状です。また機械設備・電気設計は建築が分かっていないと難しいですからね。やはり「建築」と「設備」が同時に学べる場所があると、業界的にも大きく変わってくると思います。

—意匠設計との絡みで意識していることなどはありますか？

福永：納まりも重要ですが、設計ミスには非常に神経を使います。建築工事と違い、引き渡した後に「室内が暖まらない」「お湯が出ない」「電気がつかない」などになってしまうと、緊急で動かなければならぬいうえ、壁や床の解体など、他工種に迷惑をかけてしまいますので。あとは竣工したときに「なんでここに配管が？」なんてことが起こらないように、意匠設計の段階で図面とすり合わせをおこなうようにしています。事前に分かると、納めの工夫ができる

ので融通が効きますから。

大場：福永さんを信頼している点は、建築図面の読み込みが正確で、意匠の意図を理解して検討してもらえるので現場でのトラブルがほとんどないんです。他の設備設計会社さんでは、思わぬところに設備が露出になってしまったなどということもありました。なので非常に希少な存在だと思います。

—そうなんですね。大場さんと福永さんの出会いは、どこかのプロジェクトで一緒されたのでしょうか？

大場：そうです。私は大学時代に卒業設計で「街自体が学校」というテーマで作品を制作しました。そのときに、「多くの人の人生に影響を与えられる教育施設の設計に携わりたい」と思い、卒業後は学校建築などの教育施設の設計実績が豊富なシーラカンズアンドアソシエイツトウキョウ (CAT) に入所しました。そこで流山おおたかの森小・中学校という建築学会賞を受賞した作品などに携わることができました。その後某事務所と協働で幼稚園のプロジェクトに関わっているときに設備設計をされていたのが福永さんでした。

—学校建築ですと街との関わり合いが大きく関係してきそうですね。設計するにあたって一貫したテーマなどはありますか？

大場：街の人と共有できる空間や要素を探し、建築と街との関係をいかに築けるかを考えています。建築自体を遊具として遊べるようにし、子どもたちが遊んでいる様子が街の風景となるようにしたり、夜の明かりが地域を灯すような園を設計したり、施設内に街の人も利用できるようなエントランスホールと連続したランチルームを設けるなど、交流が生まれる環境を作っています。また学校それぞれに教育哲学があり、そこを建築によってどのように具現化し、子どもたちに伝えていけるかを常に意識しています。「形にならない思い」こそ、本質的な一面が隠れていると思うので、そこを引き出し、建築に落とし込めるかも大切にしているところです。それはどんな建物でもやっていきたいですね。その思いを形にしたとき、心臓部として設備設計が入ることで、「建築物」になるのだと思います。

福永：設備設計は人生の全ての瞬間に関わるものです。病院の分娩室から火葬場まで。そう考えると建物の関わりと同じくらい重要な分野ですよ。今の若い人たちにも、この面白さと奥深さを感じてもらい、少しでも設備設計に興味を持ってもらえるといいですね。

—まさしく建物の「心臓」ですね。本日はありがとうございました。

株式会社 環境プランナー

事務所 〒176-0001  
東京都練馬区練馬 1-15-8  
TEL 03-5946-9223 FAX 03-5946-9224  
代表取締役会長 福永 俊春  
設立 1987年2月  
WEB <https://www.kankyo-planner.com/>



大場 英明 (おおば ひであき)

1984年 埼玉県生まれ  
2007年 法政大学工学部建築学科 卒業  
2009年 法政大学工学部研究科建設工学専攻建築学領域修士課程 修了  
法政大学デザイン工学部 教育技術員 (現: 教務助手)  
2010年 株式会社シーラカンズアソシエイツトウキョウ (CAT) 入所  
2016年 株式会社アトリエ9 建築研究所 入所  
2017年 大場英明建築設計事務所 設立

TOPICS/INFORMATION

「原宿竹下通り商店会 夏の環境浄化パトロール」に参加 2024年8月23日（金）

原宿神宮前エリアにて、原宿竹下通り商店会・原宿表参道教会・原宿神宮前商店会・穂田キャットストリート商店会が合同で主催する「夏の環境浄化パトロール」に参加しました。

夏休み期間中、原宿地区のはみ出しワゴン・客引き・スカウト・不法看板・放置自転車などの取締りと美化活動を



渋谷消防署長のご挨拶の後、活動開始

合わせ、来街者が安心できる街づくりを推進するため、原宿警察署のご協力のもとおこなわれました。

同エリアでの工事が多い弊社。日頃の工事への感謝、地域貢献の想いを込めて、実施された期間内の2日間参加させていただきました。



JR 原宿駅前の様子

弊社は原宿竹下通り商店会と共に活動に参加し、この日は、神宮前交番横の表参道まちかど庭園から、原宿駅前方面へと表参道を通り、竹下通りを抜けて神宮前交番横へ戻ってくるルートでした。

16時に集まり、渋谷消防署長からの



竹下通りには多くのゴミが落ちていた

手にしたゴミ袋へそれらを集め、およそ1時間のパトロール・美化活動をおこない活動終了。

「ゴミ箱がないのに街にゴミが落ちていない」と、海外でも高く評価されている日本。海外のスポーツスタジアムで、観戦後に座席周りを清掃する日本人がニュースで取り上げられるなど、そのモラルやマナーは世界的にも注目されています。

今回は慈善活動として参加しましたが、一人一人の少しの意識の違いで、より良い街環境となることでしょう。



空地などはゴミが投げ入れられていた

「まちだ青城祭」開催レポート VS ジュビロ磐田 2024年8月17日（土）

— 町田 GION スタジアム —

SC293号でお知らせいたしました、弊社がオフィシャルパートナーをしているプロサッカーチーム「町田ゼルビア」主催の夏祭りイベント「青城祭」に参加してきました。



緑日の射的ブース

会場である、町田 GION スタジアムに降り立つと、チームカラーの青いユニフォームに包まれた多くのサポーターたち。緑日や屋台、キッチンカーなどが連なり、スタジアム横の広場では櫓が組まれるなど、まさに「夏祭り」という雰囲気気分が高揚します。



辰のロゴが入った限定ユニフォーム

会場では、青城祭限定のユニフォームが来城者に配られ、背中には本イベントに協賛した証である辰のロゴが記載されていました。



選手へ贈られる応援メッセージを送る

18時キックオフとなったジュビロ磐田戦は、4-0と華々しい勝利戦となり、ハーフタイムにはバックスタンド側に花火が打ち上げられ、「町田で1番大きな夏祭りになる！」のビジョン通り、J1リーグで迎えた初めての夏祭りに相応しい1日となりました。

来年の開催も楽しみです。



ハーフタイムに夜空を彩った大型花火

「神宮前マンション」が新建築 2024年8月号に掲載



SC291号でご紹介いたしました「神宮前マンション」が、新建築 集合住宅特集に掲載されました。路地を彷彿とさせるヴォイドを設けることで、建物自体が活動と交流の場となるよう、願いが込められた建物です。

所在：東京都渋谷区神宮前 | 構造：RC造 | 規模：地上3階・地下2階・塔屋1階 | 用途：共同住宅 | 設計：awn・AWN | 竣工：2024年1月 | 施工担当：池上・伊藤・齋藤（歩）/ 池上チーム

「ARROWS EAST PROJECT」新築工事 地鎮祭

2024年8月26日（月）

渋谷東に新たな共同住宅が誕生します。



構造 / 規模：RC造 / 地上7階  
用途：共同住宅  
設計：株式会社ティケイスクエア  
施工担当：齋藤（敏）/ 池上チーム  
完成予定：2025年10月

編集後記

・大気が不安定な日々が続く、ゲリラ豪雨や大型の台風によって通勤通学に限らず、多くの被害に関するニュースが報道されています。命を守る行動をとり、昨今の自然災害に備えていきたいですね。

(株)辰通信 Vol.294 発行日 2024年9月10日  
編集人：本間夏来/土屋祐一郎 発行人：岩本健寿  
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 3-8-10 JS 渋谷ビル 5F TEL:03-3486-1570  
FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから →

